



庭先で育てる おいしい果樹



スモモ・プルーンを 育てよう (前編)



おもり なおき
大森 直樹

1958年生まれ。岡山大学自然科学研究科修士課程修了。岡山県赤磐市にて果樹種苗会社を営むかたわら、家庭園芸としての果樹栽培の研究を行っている。

酸っぱいイメージをもたれがちなスモモは、近年改良が進んで甘くてジューシーな品種がたくさん揃っています。栄養バランスに優れたプルーンと一緒に、庭先で育ててみてはいかがでしょうか。

スモモとプルーンは 植物学的には同じ種類のフルーツ

古の中国では 高貴な果物として珍重

中国の人々はスモモの花や果実をことのほか好むようです。まるで日本人がクラを愛でるように、詩歌にも歌われています。その花びらが舞うと洛陽の都の女性たちは、自身の美貌や若さも花のごとく儂いものだと思ってしまうほどです。同じバラ科でもモモやアンズはピンクの花を咲かせますが、スモモの花は白ですから、ピンクとは違って、より儂さが伝わってくるのではないのでしょうか。

実際に中国でスモモを題とした成句をいくつか紹介します。

「桃李門に満つ」とは、門下生に秀才が多いこと。「桃李ものをいわざれど、下おのずから蹊を成す」とは、モモやスモモは何もいわなくても、花や果実に引き寄せられて人が集まる。つまり立派な人は、吹聴しなくても人々がその徳を慕って集まるということです。これは特に私が好きな歌で、現実とはほど遠いのですが、よく脳裏に浮かびます。「李下に冠を正さず」とは、スモモの木の下で頭の上に手を伸ばせば、スモモを盗んだのかと勘ぐられる恐れがある、すなわち誤解を受けそうなことは慎むべきである、

という意味です。スモモはこのように古くから親しまれている果物なのです。

酸っぱいモモから 甘い果物へと進化

風情のある果物、スモモについてあれこれ記しましたが、ここで名前の訂正を提案したいと思います。スモモの名称を改め、プラム(Plum)とするのです。

植物学的には、スモモと呼ばれるのが当たり前、ましてや日本人には昔から親しまれてきた呼称なのに、わざわざ外来語を使用する必要はないと思うかもしれません。しかし、このスモモなる名前の由来はというと、「酸っぱいモモ」が短縮されてきた言葉なのだそうです。確かに名づけられたころ(おそらく江戸時代に遡る)の品種は、甘さよりも酸っぱさが目立っていましたし、また完熟まで待つて収穫すればよいのですが、その収穫適期が待てずに早々に収穫するため、少々の酸味よりは食い気に負けた結果つけられた名前なのです。

しかし、最近の品種は違ってきました。そこそこの熟期であっても十分に甘く、それはスモモという言葉の意味には似つかわしくない、おいしいフルーツの仲間入りを果たしています。そこで、この際スモモとは決別し、プラムをそのまま日



濃厚な味わいを楽しめるスモモ「市成」は、1本で結実する。

本語としても使おうではないかと、最近では街の青果店でもプラムと表記されるのが当たり前になってきたのです。ですから、ここでもスモモを卒業して、以降はプラムと表記します。

果樹栽培されているプラムは 植物学的には2種に分類される

プラムには、約30種類の仲間があります。これらのうち果樹として栽培されているものは、ヨーロッパを中心としたドメスチカプラム(Pomestica)と東アジアを中心としたニホンプラム(Psalicina)の2系統です。

ドメスチカプラムは果皮の色や用途によって、プルーン(品種例/「フレンチ」「シュガー」など)、レイヌクロード、イエローエッグ、インペラトリス(品種例/「トレジディ」「プレジデント」な



たわわに実ったブルー「ケンブリッジゲージ」。

ど)、ロンバードの5種に分けられます。これでお分かりの通り、私たちはブルーンをプラムとは別の果樹として扱っています。が、植物学的に分類すれば両者は同じ種類であり、正式に両者を呼び分けるには、プラムはニホンプラム、ブルーンはドメスチカプラムの一種だということになります。なぜ、ここであえて厳密な話をしたかという、昨今、多くの品種が種苗メーカーのカタログやインターネットで紹介されるようになりましたが、それらは植物学的にいうとはたして、プラムまたはブルーンと簡単に区別してよいものかどうか、不明瞭になっているものが多いからです。そのことで、栽培上問題が生じている可能性もあります。品種の多様化は、大変有益なことです。が、来歴や原産地をしっかりと理解したうえで栽培を始める必要があります。

マイナーな存在ながらも知っておきたい種類

ニホンプラムの仲間にはサイモンプラム (Simon Plum) がありますが、中国の原産で中国では紅李または秋根子と呼ばれています。これがアメリカに渡り、サイモンプラム (Simon Plum) またはアプリコットプラム (apricot plum) と呼ばれています。

ただ、現在日本で流通している品種のうち名前が似ている「プラムコット」は、ニホンプラムとアンズとの交雑によってできた品種であり、サイモンプラムではありません。サイモンプラムのうち、今も栽培されているものとしては、「ホワイトプラム」があります。

また、ドメスチカプラムの仲間のミロバランプラム (P. cerasifera Ehrh.) は、別名チェリープラムと呼ばれ、日本ではこれをプラムの一品種として取り扱っています。が、正式にはニホンプラムよりはブルーンの仲間ということになります。ミロバランプラムの品種としては「メスレー」「オザークプレミア」「ハリウッド」などがあります。

ニホンプラムの日本における進化

名前はニホンプラムとなっていますが、実際には中国を起源とするプラムの一つです。それが、明治初期までは純粋なニホンプラムとして栽培されてきましたが、明治

以降はアメリカで交配された品種が入るようになり、ニホンプラム同士や、ドメスチカプラムとの交雑、これにウメやアンズといった種間雑種の交配も行われるようになり、多くの新しい品種が出現することになりました。

現在も栽培されている「ビューティー」「サンタローザ」「ソルダム」などの品種はすべてアメリカで育種されたものなので、アメリカプラムと呼び、ニホンプラムとは分類しています。これらは明治初期から栽培が始まり、今でも続いている非常に歴史のある品種です。なお、ニホンプラムの染色体数は2n=16の2倍体です。

ドメスチカプラムの進化

ブルーンのグループは、ドメスチカプラムの代表的な品種群の一つです。ドメスチカプラムの染色体数は6n=48の6倍体です。世界的には2000年以上の栽培の歴史ある果樹で、ユーゴスラビアやルーマニアといった東ヨーロッパを中心に欧米で盛んに栽培されています。果皮が赤く紫色で甘み強いのが特徴です。

日本では非常に目新しい果樹の種類になります。ドメスチカプラムもニホンプラムと同様に、明治時代に入ってから「ブラッドショウ」「イエローエッグ」「グリーンゲージ」といった、8品種が導入されました。しかし、西日本では多雨のため、栽培が難しいことが分かり、長野県を中心とした甲信越でのみ経済栽培が広がっていきました。

●ドメスチカプラムの品種の系統分類

ブルーン	楕円形、紡錘形、果皮は赤～紫色、甘み多く、果汁は少ない。肉質緻密、乾果向き。
レイヌクロード	円形、卵形、果皮は黄緑色か淡赤色。缶詰に向く。
イエローエッグ	大果、卵形、果皮は黄色、肉質柔軟で多汁、品質はやや劣る。生食または缶詰用。
インペラトリス	中～大果、卵形、果皮は青～紫色、多汁。生食用。
ロンバード	小果、倒卵形、果皮は赤色。加工用。



「フェーレンベルグ」

収穫期は8月下旬～9月上旬。果肉は甘くジューシー。栽培容易。1果30～40g。1本で結実するが、異品種と混植するとより実つきがよい。



「スタンレイ」

収穫期は8月下旬～9月上旬。甘い果汁がたっぷり。実つきよく、栽培容易。1果40～50g。1本で結実するが、異品種と混植するとより実つきがよい。

ブルーンのおすすめ品種

庭先で育てるおいしい果樹

プラムとブルーンの花の時期と気候条件

ニホンプラムの開花期はブルーンよりも1週間以上早く、そのためお互いの交配は自然界では稀にしかありません。また、ニホンプラムは雨や病気にに対して比較的耐性がありますが、ブルーンは雨によってたやすく果実が裂果するほか、灰星病に代表されるような果実腐敗病に弱いものが多いので、日本では栽培可能な地域が限定されます。

果皮の色による分類

ニホンプラムの果皮の色は、青、赤、黄色に大きく分類されますが、圧倒的に多いのが果皮が赤い品種です。ただ、果肉は黄色と赤色があり、東アジアの血統の濃いものには赤い果肉のものが多い傾向があります。

ヨーロッパプラムでは、ミロバランプラムには黄と赤、スピノーサプラム（ドメスチカプラムより古い品種）では黒紫があります。ミロバランプラムとスピノーサプラムの交雑によって生まれたドメスチカプラムは、両方の系統を継いでいるので、黄、赤、赤紫、紫、青紫、黒紫などの多様な色の品種があります。



●結実性による分類

アメリカプラム	自家結実性品種	「ビューティー」「キング」「サンタローザ」「コチェコ」「市成」など。
	自家不結実性品種	「バーバンク」「エレファントハート」「ケルシージャパン」「レッドハート」「ソルダム」「ハニーローザ」「太陽」「李王」「貴陽」「秋姫」「大石早生」「早生月光」など。
ヨーロッパプラム	自家結実性品種	「ツアー」「スタンレイ」「シュガー」「イエローエッグ」「フレンチ」「サンブルー」「オザークプレミア」「メスレー」「マンチュリアン」など。
	自家不結実性品種	「プレジデント」「トレジディ」「ロードサーゼン」「ハンガリアン」「ハリウッド」など。

結実性による分類

とにかくプラム栽培で最も問題になるのが、受粉における和合性の問題です。1品種植えておけば自身の花粉で結実する自家結実性のある品種もあれば、2品種混植すれば相互に交配結実する自家不結実性の品種もあります。また、混植しても相性があわずにどちらか一方または両方が結実しない品種もあるため、栽培する品種にどのような結実性があるかは、品種を選ぶ際には必ず理解しておきましょう。受粉樹としてどの品種にも適応しやすい、「コチェコ」を混植するのも一案です。

プラムのおすすめ品種



「貴陽」

収穫期は8月上中旬。糖度が高く、ジュシーな人気の品種で、生理落果も少ない。1果約200g。受粉樹が必要。



「秋姫」

収穫期は9月上中旬。収穫後、数日おいて追熟させるとおいしい。1果150～200gの大実で、250gになることもある。受粉樹が必要。



「太陽」

収穫期は8月下旬～9月上旬。早どりすると酸味を強く感じるのので、完熟させてから収穫する。1果約140g。受粉樹が必要。



「市成」

収穫期は8月下旬～9月上旬の晩生種。甘みが強く、香りがよく、果汁たっぷりでおいしい。1果約100g。1本で結実する。



「ケルシージャパン」

収穫期は9月上中旬。完熟しても果皮が緑色のままだが、酸味が少なく、甘みともに濃厚。1果150～200g。受粉樹が必要。



「マンチュリアン」

収穫期は7月中下旬。果皮は淡い黄緑色で、果肉は淡い黄色。甘みが強くみずみずしい。1果70～90g。1本で結実する。



「コチェコ」

収穫期は7月上旬。美しい赤葉をもつので観賞価値も高い。1果70～80gで小振りだが、たくさん実がつく。1本で結実する。



「ハニーローザ」

収穫期は7月上旬。果肉は黄色で甘く、酸味が少ない。生理落果や裂果が少なく、育てやすい。1果約50g。受粉樹が必要。